



新宿区立新宿養護学校

ひまわり

令和8年度6月号



<生成 AI の活用がもたらすもの>

校長 渡部 早苗

6月13日の土曜参観日は、多くのご家族に参観いただくことができました。お忙しい中、ご来校ありがとうございました。ご家族の皆様の温かい見守りと応援が子供たちにとって何よりの励みとなり、生き生きと学習活動に取り組む姿をご覧いただけたことと思います。

さて、今回の参観場面では、生成 AI の活用が所々に見られましたが、お気づきでしたでしょうか。最近では、普段から簡単な文書作成、伝えたい場面を適切に表現したイラストや授業内容のプレゼンテーションなど、授業づくりにおける生成 AI の利用が確実に広がってきています。先日、他校の PTA 役員の皆様とお話する機会がありましたが、そこでは、会議に向けたレジュメ作成や会計処理などに費やす時間が短縮できるので、とても助かっているという方も複数いらっしゃいました。

学校で働く私たち教員が、生成 AI を活用する最大の意義は、「業務の効率化」と「教育の質の向上」を同時に実現できる点にあると考えます。

業務の効率化 指導案の骨子作り、教材のアイデア出しなどを生成 AI がサポートすることで、これまで膨大な時間を費やしていた事務作業が短縮されます。

教員自身の壁打ち相手 授業の導入アイデアや、多角的な視点からの問い掛けのヒントをいわゆる「壁打ち」(生成 AI とのやりとりを意味します。)によって得ることで、授業づくりの幅が広がります。

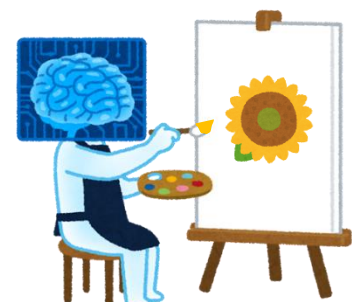
これらの活用により、教員が注力すべき「目の前の子供たちと向き合う時間」や「個別の専門的な指導」などに、より多くの時間とエネルギーを割くことができるようになります。

一方で、生成 AI に依存し過ぎることで、教員自身の専門性や創造性が損なわれるリスクも懸念されています。

授業デザイン力の低下 生成 AI が出力した「それらしい指導案」や教材をそのまま流用することが続くと、教員自身が「なぜこの順番で教えるのか」「この子供たちが真に理解する伝え方は、どのように導くとよいのか」などを深く想像し、組み立て、デザインしようとする力が衰えてしまう恐れがあります。

指導内容の画一化と直感の軽視 生成 AI の提案を優先するあまり、教員が長年の経験で培った「直感」や、マニュアルなどには表れにくい「想定外の展開から学びを生み出す創造性」が発揮されにくくなる危険性があります。

したがって、生成 AI の活用は教員の創造性を「奪うもの」ではなく、教員の事務負担を減らすことで、創造性を発揮する余白を「生むもの」であってほしいのです。「AI に考えさせる」のではなく、「AI のアウトプットを土台に、教員がどのように自分らしさを付け加えていくのか」という関係の構築を常に意識し、また崩さない姿勢が切に求められていると思います。



「低学年つくし・ばらグループ半日校外学習」

5月22日(金)に渋谷区立代々木ポニー公園に行きました。当初予定していた乗馬体験は、雨のためできませんでしたが、屋根のある所で、ポニーとの触れ合い体験をじっくり行うことができました。子供たちは、ポニーを間近で見て、始めはその大きさに少し驚いた様子でしたが、徐々に慣れ、優しくなったり、ブラッシングをしたり、餌やりをしたりしていました。ポニーの体に触れた感触に心地良さを感じ、子供たちからはたくさんの笑顔が見られました。餌やりでは、ポニーの口元に人参を持っていくのが難しく、何度も挑戦しました。ポニーがニンジンを食べると、子供たちは嬉しそうでした。最後は、ポニーと一緒に全員で記念撮影をしました。生き物と触れ合う楽しさを感じることができた半日校外学習となりました。



「高学年つくし・ばらグループ半日校外学習」

板橋こども動物園と Café ふれあいに行きました。板橋こども動物園では、雨のためヒツジやヤギは室内での飼育でした。しかし、動物とのふれあいの練習をしてきたことを知った施設職員の方が、子供たちのそばに動物たちを連れてきてくれました。練習とは違い、動物たちの動きにドキドキしている様子が見られました。最後には全児童がふれあうことができました。

昼食は、東京都障害者総合スポーツセンター内にある Café ふれあいのハンバーグ定食を食べました。自分たちで注文・支払いを行いました。慣れない環境での食事でしたが、たくさん食べることができました。ドキドキしながらも少しずつ近づいて動物に触れたり、施設の方に「ありがとうございました」と伝えたりする姿に、子供たちの頑張りや成長を見ることができた校外学習でした。



「低学年こすもすグループ半日校外学習」

5月29日(金)、低学年こすもすグループ5名で新宿御苑に行きました。最初に広場に行き、集合写真を撮影した後、みんなでシャボン玉を飛ばしました。青空の下で、きれいなシャボン玉を見ながら楽しそうにスイッチを動かして、更にシャボン玉を飛ばしていました。次の映像を見るコーナーでは、子供たちは、床にある円で囲まれた部分を足で踏むと、たくさんの光が出てくることに気付き、とても興味深そうに見ていました。普段学校では経験することができないことをたくさん経験することができ、とても貴重な機会となりました。バスの中では、いつもと違う場所に向かっていくことがわかり、行きも帰りもワクワクした表情でした。

事後学習では、それぞれが楽しかったことを選び、写真を貼ったり、マジックペンで絵を描いたりして振り返りのカードを作りました。廊下に掲示してありますので、来校の際にはぜひご覧ください。



「今年度も校内研究が始まりました！」

昨年度に引き続き、「自立活動」の研究を行っています。1月末には研究発表会を予定しており、教職員で検討や実践を深め合い、児童・生徒の自立活動の指導に還元できる1年にしたいと考えております。

4月24日(金)には、大学から先生を招聘して、「子供たちの身体とは？」というテーマで講義をいただき、さらに、身体にアプローチする際の手技も教えていただきました。教員で2人組になり、仰向けで足首の曲げ伸ばしを数回してから、立位姿勢で前屈をすると、床に手をつけなかった人も、つけるようになる実践をしました。数分間のストレッチではありますが、足首の曲げ伸ばしをすることで、足首や膝裏、太もも裏の関節や筋肉の緊張が緩み、身体を動かしやすくなったことを体感しました。1日の生活の中で、車いすなどに座った姿勢が多い肢体不自由の児童・生徒にとって、私たち教員が、自立活動の時間の中で身体への取組を行う意義を再認識しました。今後も、PT・OT・STをはじめ、外部講師等の助言をいただきながら、教員間で自立活動の実践を報告・共有し合う研修を行い、より良い指導に努めてまいります。

